

令和3年度 学校評価(自己評価)

兵庫県立こやの里特別支援学校

学校目標 「子どもが育つ学校~こころ~からだ~きずな」

学校教育方針

「児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し、自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す」

令和3年度 学校自己評価目標

- (1)安全・安心で美しい学校をめざします。
(2)学校から積極的に情報を発信し、家庭・地域とともに、多様性、つながります。
(3)校務・教育におけるICT機器の活用を推進します。
(4)校内研修を充実させ、教職員の資質向上を図ります。
(5)社会的自立に向けたキャリア形成の支援に努めます。

別添資料2-2

評価基準
A(4):よくできた
B(3):できた
C(2):あまりできなかった
D(1):できなかった

評価基準
A(4):はい そう思う
B(3):どちらかといえばそうである まあそう思う
C(2):どちらかといえばそうではない あまりそう思わない
D(1):いいえ そう思わない
E(0):知らない わからない

アンケート回収率

小学部: 86%
中学部: 74%
高等部: 70%
分教室: 78%
訪問教育: 100%

Table with columns for '自己評価項目(教員)', 'アンケート項目(保護者)', and '成果と今後の課題'. Rows are categorized by school level: 小学部, 中学部, 高等部, 分教室, 訪問教育, 支援部, 総務部. Each row contains specific evaluation items, scores, and future goals.

教務部 重点目標 (2)(3)	1 ICT機器を活用することができるよう、教員のスキルアップをはかる。	様々な研修会で得られた知見について、全教員に周知する。	1 ICT機器活用について、全職員向けの研修会を計画中である。研修会を実施することで、全職員が知識・技能を共有することができると考えられる。 また今後、得られた知識や技能を、授業や日常の指導支援に生かすことができると考えられる。	1 ICT機器活用についての知識・技能を、教員が共有することができたか。 得られた知識や技能を、授業や日常の指導支援に生かすことができたか。	3.11	1 教員がICT機器活用についてのスキルを上げることができたか。	3.06	1 学校の授業や行事で、ICT機器が有効に活用されていると感じますか。	2.16	教員のICTスキル向上についての自己評価では、8割を超える教員がポジティブな評価をしており、スキルが向上していると考えられる。しかし、保護者の実感としては、約半数しかICT機器が有効に活用されているとは感じ取れない。引き続き、授業や行事での活用を推進するとともに、活用状況を保護者に発信していく必要がある。 また、校内のICT環境が十分に整備されていないことは大きな課題である。今年度の児童生徒の増加に対するタブレット端末の追加配備はなく、全児童生徒数に20数台、足りていない。Wi-Fi環境についても、数ヶ所、未設置の特別室等があり、すべての教室を網羅できていない。回線は無線で、全教室に映像等を配信しようとする、フリーzingしてしまうことがある。今後の改善が望まれる。		
	1 わかりやすい情報を発信し、学年と連携しながら保護者へのサポートの充実を図る。	1 進路通信の内容を吟味し、わかりやすく伝えるように工夫する。学年や担任と連携し、必要な情報を確実に発信するよう努める。	1 進路通信は小・中・高と全校配布することを念頭に置き、内容を吟味しわかりやすくする。学年や担任と連携し、必要に応じて連絡や電話で対応している。	1 進路通信の内容が適切で、文章は平易で読みやすいか。 学年や担任と連携し、必要な情報を確実に発信することができたか。	3.31	1 確実に情報を発信し、生徒や保護者の疑問や不安を軽減することができたか。	3.18	1 進路通信やホームページ等、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	2.78	1 進路通信やホームページ等、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	2.78	1 進路通信やホームページ等、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。
進路指導部 重点目標 (2)(5)	2 本人にとってよりよいキャリア形成を念頭に、進路指導を行う。	2 学習及び家庭の生活全般において、キャリア形成を目的とした指導支援が行えるよう、保護者や担任と連携する。	2 実習に対する取り組みの中で、進路実現に向けて学校生活や家庭での過ごし方についての相談・アドバイスを担任と連携して行っている。	2 生徒一人一人のキャリア形成を念頭に、担任や保護者と連携できたか。	3.23	2 本人、保護者が進路指導に納得し、進路先のイメージを共有できていますか。	3.15	2 進路に対する考え方、家庭環境、生徒の状況がそれぞれ違うため、進路の方向、目標が大き異なる。日本の生徒の様子を把握するために担任と進路指導部との連絡相談を行っているが、より連携を強化していきたい。卒業後の進路先、さらにもっと先の生活のイメージを持つことで家庭での取り組みの重要性を促し、学校と連携しながら本人のキャリア形成を進めていくことが大切になる。進路相談や担任からの働きかけにより、家庭への意識向上をより進めていきたい。	2.78	2 進路に対する考え方、家庭環境、生徒の状況がそれぞれ違うため、進路の方向、目標が大き異なる。日本の生徒の様子を把握するために担任と進路指導部との連絡相談を行っているが、より連携を強化していきたい。卒業後の進路先、さらにもっと先の生活のイメージを持つことで家庭での取り組みの重要性を促し、学校と連携しながら本人のキャリア形成を進めていくことが大切になる。進路相談や担任からの働きかけにより、家庭への意識向上をより進めていきたい。	2.78	2 進路に対する考え方、家庭環境、生徒の状況がそれぞれ違うため、進路の方向、目標が大き異なる。日本の生徒の様子を把握するために担任と進路指導部との連絡相談を行っているが、より連携を強化していきたい。卒業後の進路先、さらにもっと先の生活のイメージを持つことで家庭での取り組みの重要性を促し、学校と連携しながら本人のキャリア形成を進めていくことが大切になる。進路相談や担任からの働きかけにより、家庭への意識向上をより進めていきたい。
	3 望ましい食習慣の形成を図るため、親衛的な給食管理の下に栄養バランスの取れた献立内容の充実を図る。	3 給食だよりを通して、成分表を家庭に配布し、給食室における衛生・感染症対策の状況と食料や栄養についての情報を発信する。	3 給食だよりを配布し、感染症予防に役立つ衛生管理や栄養に関する情報を発信した。クラス掲示用の献立は献立名だけでなく、毎日の食に関する情報を提供するように変更した。	3 給食の献立や環境の調整ができたか。 児童生徒や保護者に対して、情報提供ができたか。	3.45	3 安心安全に、栄養バランスの取れた給食を提供することができたか。	3.40	3 給食のメニューや食材、栄養等について、分かりやすくお伝えすることができていますか。	3.57	3 給食のメニューや食材、栄養等について、分かりやすくお伝えすることができていますか。	3.57	3 給食のメニューや食材、栄養等について、分かりやすくお伝えすることができていますか。
保健部 重点目標 (1)(2)(4)	1 児童・生徒が健康で、安心・安全な学校生活を送るため、「学校の新しい生活様式」に則り、感染症対策を継続する。	1 感染症対策においては、家庭、学校全体で連携する。また、校医などの専門家の意見を参考に、保護者や教員に積極的に情報発信を行う。	1 こやのさとスタイル(ダイジェスト版、マニュアル)について、感染状況に応じて、学校医の意見を聞き、文科省や県教委の基準に合わせて見直しを行った。その都度、校内グループウェアと学校ホームページにアップし、全職員、保護者と情報共有できるようにした。	1 専門家の意見も参考にしながら、わかりやすいマニュアルを作成できたか。 また、それを学校と家庭とで共有し連携することができたか。	3.46	1 保護者は、おたよりやホームページで情報を知ることができたか。 職員は、会議や掲示板等でタイムリーに情報を知ることができたか。	3.42	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	3.46	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	3.46	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。
	2 児童生徒に自らの健康を守るための能力を身につけさせるため、健康教育の推進を図る。	2 月間保健目標及び給食目標についての学習を通して、心身の健康教育を行う。内容について、学校のホームページや保護者だよりを通じて発信する。	2 月間保健目標と給食目標についての学習を行うよう、保健部が教材(プレゼンテーション)を製作し、生徒用ファイルサーバーに入れ、各クラスで活用してできるようにした。従来のポスターだけの告知よりも、視覚的に学習でき、意識付けができたと思われる。	2 クラスの活動の中で保健目標や給食目標について指導することができたか。 また、内容について情報を発信することができたか。	3.37	2 児童生徒は、保健目標や給食目標を理解したり意識したりすることができたか。	3.20	2 保健目標や給食目標について、発信等でお伝えすることができていますか。	3.52	2 保健目標や給食目標について、発信等でお伝えすることができていますか。	3.52	2 保健目標や給食目標について、発信等でお伝えすることができていますか。
生徒指導部 重点目標 (1)(2)	1 児童生徒の心や体を守る校内環境づくりを行う。	1 他者とも連携し、感染状況に合わせて、その都度訓練行事などの内容を企画する。また、それらの活動の様子について、学校ホームページなどで情報を発信する。	1 こやのさとスタイル(ダイジェスト版、マニュアル)について、感染状況に合わせて、各別訓練行事を行うことができた。地震避難訓練は、「小学部」と「中学部、高等部」の二段階で訓練を行う内容としている。訓練の様子はホームページにアップし、災害に 대비 した大切さも伝えることができた。	1 保健部など他の分掌とも連携し、適切な感染症対策を行うなど、内容の検討ができたか。 また、情報発信ができたか。	3.42	1 安全に、訓練等行事を行うことができたか。 その活動について、保護者に情報が伝わったか。	3.38	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	3.07	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。	3.07	1 学校の感染症対策について、お子さまの進路に関して必要な情報を得ることができていますか。
	2 児童生徒会を中心に、児童生徒が主体的に活動できるように指導支援を行う。また、それらの活動の様子について、学校ホームページなどで情報を発信する。	2 児童生徒会役員が意見を出し合い、手洗いや消毒の徹底について取り組めるよう指導支援を行う。また、それらの活動の様子について、学校ホームページなどで情報を発信する。	2 児童生徒会役員が意見を出し合い、手洗いや消毒の徹底について取り組めるよう指導支援を行う。また、それらの活動の様子について、学校ホームページなどで情報を発信する。	2 児童生徒会が主体的に活動できるように指導支援を行うことができたか。 また、情報発信ができたか。	3.38	2 児童生徒会が、主体的に仲間づくりについての活動を行うことができたか。 その活動について、保護者に情報が伝わったか。	3.24	2 児童生徒会の活動が活発になされていると感じますか。	1.99	2 児童生徒会の活動が活発になされていると感じますか。	1.99	2 児童生徒会の活動が活発になされていると感じますか。
研究部 重点目標 (4)(5)	1 研修会等を通してPDCAサイクルを意図した授業づくりの理解を深めるとともに、研究日等を主体的・意図的に取り組める授業を考える。	1 研究日等を効果的に活用できるような設定をする。児童生徒の実態から「つけたい力」を考え、観点別評価シートを活用して、授業前後の評価を行うことで、一人ひとりに適した支援方法を模索する。	1 コロナ禍であったが、全学年学年で公開研究授業を実施することができた。研究日等を利用した授業づくりの中で、学年等で付随ワーク等を活用し、子どもの実態から目標・手立てを考え、事前学習での振り返り等を通して、学年の中で授業に対する意見交換等ができた。	1 研究日の取組を明確化し、学年で相談しながら、授業づくりについての研究に力を入れることができたか。 授業後の反省会でも、次の授業につながるような取組の振り返りができたか。	3.36	1 児童生徒が主体的・意図的に取り組める授業づくりができたか。 授業後の反省会でも、次の授業につながるような取組の振り返りができたか。	3.34	1 学校の授業は、お子さまに合っていますか。	3.41	1 学校の授業は、お子さまに合っていますか。	3.41	1 学校の授業は、お子さまに合っていますか。
	2 校内研修会や公開研究授業参観等を通して、授業の取り組み方や支援方法等の研修や交流を行う。	2 感染防止を念頭にしながら、校内研修会の内容、方法を検討する。同様に、公開授業においても取り組み方、参観方法等を検討する。	2 授業研究に関する研修会を7月と11月に設けることができた。本校教員のピチオを活用して、授業改善の具体的な学びを得ることができた。学部ごとの実践報告会では、各学年の取組を共有することができた。	2 校内研修の内容や方法を検討し、授業づくりを生かせる情報を教員に提供できたか。	3.33	2 教員は、研修会や公開授業などを通じて、授業づくりを生かせる情報を得ることができたか。	3.31	2 今年度は授業研修会を2回実施することができた。授業研修会を通して、「わかって動く授業づくり」の根幹や授業を考える上でのポイントなどを再認識することができた。次年度もより、具体的な職員が共有しやすいポイントを考えながら、研修会の運営を考えていきたい。	3.41	2 今年度は授業研修会を2回実施することができた。授業研修会を通して、「わかって動く授業づくり」の根幹や授業を考える上でのポイントなどを再認識することができた。次年度もより、具体的な職員が共有しやすいポイントを考えながら、研修会の運営を考えていきたい。	3.41	2 今年度は授業研修会を2回実施することができた。授業研修会を通して、「わかって動く授業づくり」の根幹や授業を考える上でのポイントなどを再認識することができた。次年度もより、具体的な職員が共有しやすいポイントを考えながら、研修会の運営を考えていきたい。
自立活動部 重点目標 (4)(5)	1 自立活動研究日等を計画的に運用し研修機会を設定する。	1 各学部の状況に応じて年間5回の自立活動研究日を設定し、効率的に運営する。	1 学部の実態に応じて研究日をスケジューリングし、計画的に実施することができた。資料や映像を事前に準備することでより理解を深めることができた。	1 各学部の実態に応じて自立活動研究日の計画的な運営ができたか。	3.29	1 自立活動研究日の内容が周知され、教員は研修機会を有効に活用することができたか。	3.26	1 自立活動研究日の内容を周知しておくことで、発表者が児童生徒の動向・写真や教材を準備し、具体的に分かりやすく研修を進めることができた。こうした事情が、児童生徒についての共通理解を進めることに繋がっており、9割の方々の理解を得ているのだと思われる。新しい先生方も含め、取り組みの意義や目的をもう一度再確認していくことでもう少し自立活動研究日の理解が深められるのではないかとと思われる。	3.41	1 自立活動研究日の内容を周知しておくことで、発表者が児童生徒の動向・写真や教材を準備し、具体的に分かりやすく研修を進めることができた。こうした事情が、児童生徒についての共通理解を進めることに繋がっており、9割の方々の理解を得ているのだと思われる。新しい先生方も含め、取り組みの意義や目的をもう一度再確認していくことでもう少し自立活動研究日の理解が深められるのではないかとと思われる。	3.41	1 自立活動研究日の内容を周知しておくことで、発表者が児童生徒の動向・写真や教材を準備し、具体的に分かりやすく研修を進めることができた。こうした事情が、児童生徒についての共通理解を進めることに繋がっており、9割の方々の理解を得ているのだと思われる。新しい先生方も含め、取り組みの意義や目的をもう一度再確認していくことでもう少し自立活動研究日の理解が深められるのではないかとと思われる。
	2 児童生徒の実態に基づく専門的な指導方法を共有し、充実させる。	2 事例研究、授業交流、専門家情報等、実践的内容を企画する。	2 専門家からの助言や、授業づくりの工夫を共有することで、指導のアイデアや視点を共有することができた。	2 事例研究、授業交流、外部専門家のいづれかを活用できたか。	3.26	2 児童生徒の障害特性や発達に応じた授業づくりについて、専門的な知見を共有し、活用することができたか。	3.24	2 外部講師の活用は非常に貴重な機会であるが、総時間数が少ないのでアドバイスを共有することが大切である。今年度は、自立活動研究日や学年会を情報共有の場として設定したことが効果的であったと考えられる。次年度以降も、相談者や担任のみで終わらずに、広く共有することが大切と思われる。	3.41	2 外部講師の活用は非常に貴重な機会であるが、総時間数が少ないのでアドバイスを共有することが大切である。今年度は、自立活動研究日や学年会を情報共有の場として設定したことが効果的であったと考えられる。次年度以降も、相談者や担任のみで終わらずに、広く共有することが大切と思われる。	3.41	2 外部講師の活用は非常に貴重な機会であるが、総時間数が少ないのでアドバイスを共有することが大切である。今年度は、自立活動研究日や学年会を情報共有の場として設定したことが効果的であったと考えられる。次年度以降も、相談者や担任のみで終わらずに、広く共有することが大切と思われる。